

# 第43回 社会言語科学学会大会

Program of the 43rd Biannual Meeting of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences



日時 2019.3.16(土)~17(日)  
受付開始: 16日(土) 10:00~/17日(日) 9:30~

場所 筑波大学 筑波キャンパス(中地区 第一エリア)  
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

交通 (1)つくばエクスプレス「つくば」駅下車。出口A3からつくばセンターバス乗り場へ。(2)つくばセンターバス乗り場6番より「筑波大学中央」行き、もしくは、「筑波大学循環(右回り)」のバスに(10~15分程度)乗車して、「第一エリア前」バス停下車。バス停から会場までは、300m弱。  
お問い合わせ先 社会言語科学学会研究大会委員会 E-mail: jass-desk@bunken.co.jp http://www.jass.ne.jp/?page\_id=49

参加費 会員: 3,000円/非会員: 5,000円  
学生会員: 2,000円/学生非会員: 4,000円

## 3月16日(土)

10:00 受付開始〔1C 2階廊下〕

10:30 開会

10:30-11:00	研究発表(口頭発表)	<セッション1>〔1C 403〕 司会: 杉浦 秀行(摂南大学) 日本語左方転位構文の再検討 —コミュニケーション上の働きに注目して— 居關 友里子(国立国語研究所), 大江 元貴(金沢大学), 鈴木 彩香(国立国語研究所)	<セッション2>〔1C 406〕 司会: 山本 真理(関西学院大学) 「へー」と連鎖の展開のかかわりについて —第三の位置に用いられる「へー」を中心に— 関 玲(筑波大学)	<セッション3>〔1C 306〕 司会: 平田 未季(北海道大学) 言語使用面から見た日源新詞の受容 —一定着度調査を中心として— 張 曉娜(鹿児島大学)	
		11:05-11:35	英語による議論においてどのような要因が日本人の自発的発言を促進するのか 春木 茂宏(近畿大学)	スポーツ実況で解説を求めること —「指名質問」とそれに対する応答— 劉 礫岩(NICT)	ブラジル移民のコイネー形成 —創始者効果と方言接触理論の検証— 松本 和子(東京大学), フェイジョー フラビア(東京大学), 奥村 晶子(東京大学), フォンセカ マルコ(イリノイ大学)
		11:40-12:10	映像作品(映画)の日本語は字幕翻訳によって何がかわるのか —日本語のセリフと英語字幕翻訳のテキストマイニング— 保坂 敏子(日本大学), 豊田 哲也(青山学院大学), 島田 めぐみ(日本大学)	日本語の会話に見られる認識的スタンスの調整 中馬 隼人(名古屋大学)	鶴岡共通語化調査における「方言化」 —個人追跡データの分析から— 鎌水 兼貴(国立国語研究所)

13:20-13:25 会長挨拶〔1H 201〕

13:25-13:40 発表賞授賞式・スピーチ〔1H 201〕

13:40-14:45 徳川賞授賞式・講演〔1H 201〕

公開シンポジウム〔1H 201〕

「東京オリンピック・パラリンピックと社会言語科学」【企画・司会】多々良 直弘(桜美林大学)  
スポーツ実況中継の対照研究 多々良 直弘(桜美林大学)  
選手間コミュニケーションの対照研究 —試合中の戦術決定はいかになされているか— 八木橋 宏勇(杏林大学)  
オリンピック放送の「役割語」 —外国人選手インタビューの翻訳字幕から— 太田 眞希恵(NHKラジオセンター)  
スポーツ番組の自動実況・解説放送 熊野 正(NHK放送技術研究所)

18:30-20:45 懇親会〔大学会館レストランブラザ「筑波デミ」〕

## 3月17日(日)

9:30 受付開始〔1C 2階廊下〕

10:00-11:15	ポスター発表	<ポスター発表1>〔1C 3階廊下〕 司会: 伊藤 翼斗(京都工芸繊維大学) P-01 在日コリアンによる朝鮮語の「名詞的表現」に関して —朝鮮学校コミュニティを中心に— 權 恩熙(名古屋大学), 宇都木 昭(名古屋大学)	他 計12件
		<ポスター発表2>〔1C 3階廊下〕 司会: 伊藤 翼斗(京都工芸繊維大学) P-13 感動詞「あら」について —1970年代・1980年代の使われ方に注目して— 加藤 恵梨(大手前大学)	他 計12件

12:30-13:30 JASSカフェ〔1A 203〕

14:00-14:30	研究発表(口頭発表)	<セッション4>〔1C 403〕 司会: 船橋 瑞貴(群馬大学) 日本語母語話者と日本語非母語話者のキャラクター表出の比較 —スピーチスタイルに着目した談話分析による質的研究— 荒井 美咲(東北大学)	<セッション5>〔1C 406〕 司会: 遠藤 智子(成蹊大学) 自虐的な評価が抱えるジレンマ —いかにして人は自虐し、それに応じるのか— 岸本 健太(関西学院大学)	<セッション6>〔1C 306〕 司会: 宮永 愛子(山口大学) 日本手話会話におけるろう者の言語使用 —年代別のろう者のマウジング使用頻度に着目して— 岡田 智裕(総合研究大学院大学), 坊農 真弓(国立情報学研究所, 総合研究大学院大学)	
		14:35-15:05	ツールミンモデルを用いた新聞社説の日英比較 —議論の順序と複雑度の観点から— SPREADBURY Ash(慶應義塾大学)	会話の中での学習の達成 —学習の達成を可能にするメタ語用的フレームに注目して— 李 址遠(早稲田大学)	福祉事業所の契約書類等における知的障害者向けの言語的配慮 —計量分析および語の言い換え事例を中心とした考察— 羽山 慎亮(名古屋芸術大学), 打浪 文子(淑徳大学短期大学部)
		15:10-15:40	韓国ドラマの日本語訳から見た対称詞運用の日韓対照 金 知垠(大阪府立大学)	笑いの相互行為性 —多人数会話における不均衡状態から笑いの共有に至るプロセス— 児島 麦穂(大阪大学)	揺れるアイデンティティ —日本在住日系人へのインタビューナラティブの談話分析— 村田 和代(龍谷大学)
		15:45-16:15	「笑い」に関するオノマトペの日中対照研究 夏 逸慧(東北大学)	外食場面における外部割り込みからの話題再開ストラテジー 小笠 弘子(立命館大学), 岡本 雅史(立命館大学)	